



# Netskopeによる次世代セキュリティ～全体像のご紹介～

東京エレクトロン デバイス株式会社

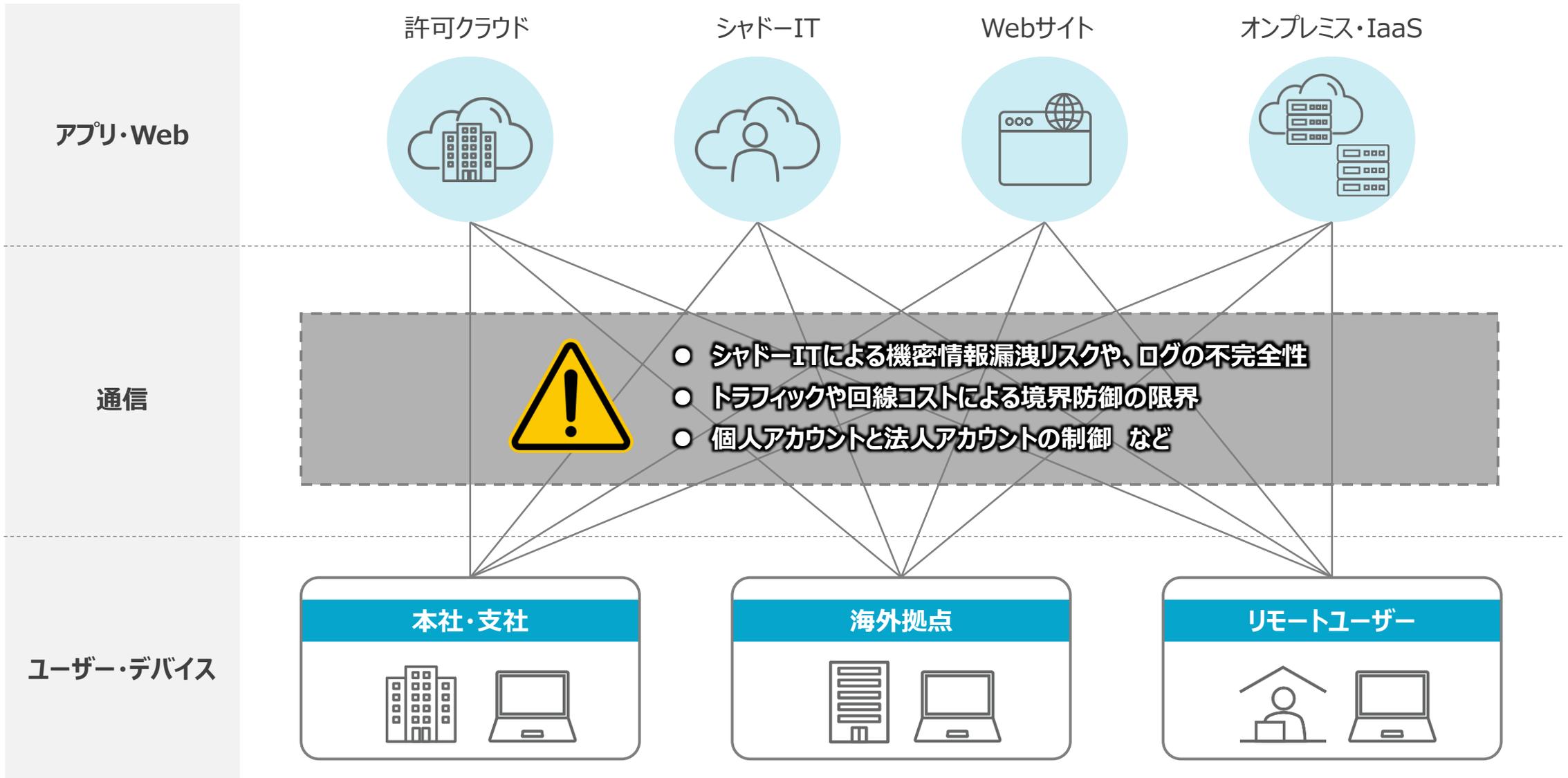
2024年12月23日

CN BU営業本部

藤方楓



# 企業の現状





# Netskope社のご紹介と全体像



本社 : Santa Clara, CA

## 社名

Netskope, Inc.

## 本社

Santa Clara, CA

## 設立

2012年

## 導入企業

### Fortune 100企業の25%以上に導入

政府、銀行、製薬会社、コンサル企業、保険、電力、石油・ガス、リテール、医療などの様々な業界で豊富な導入実績

## 技術力

包括的な特許を45以上取得

## 評価

世界でトップの投資家から資金調達、市場評価額は75億ドル以上に成長

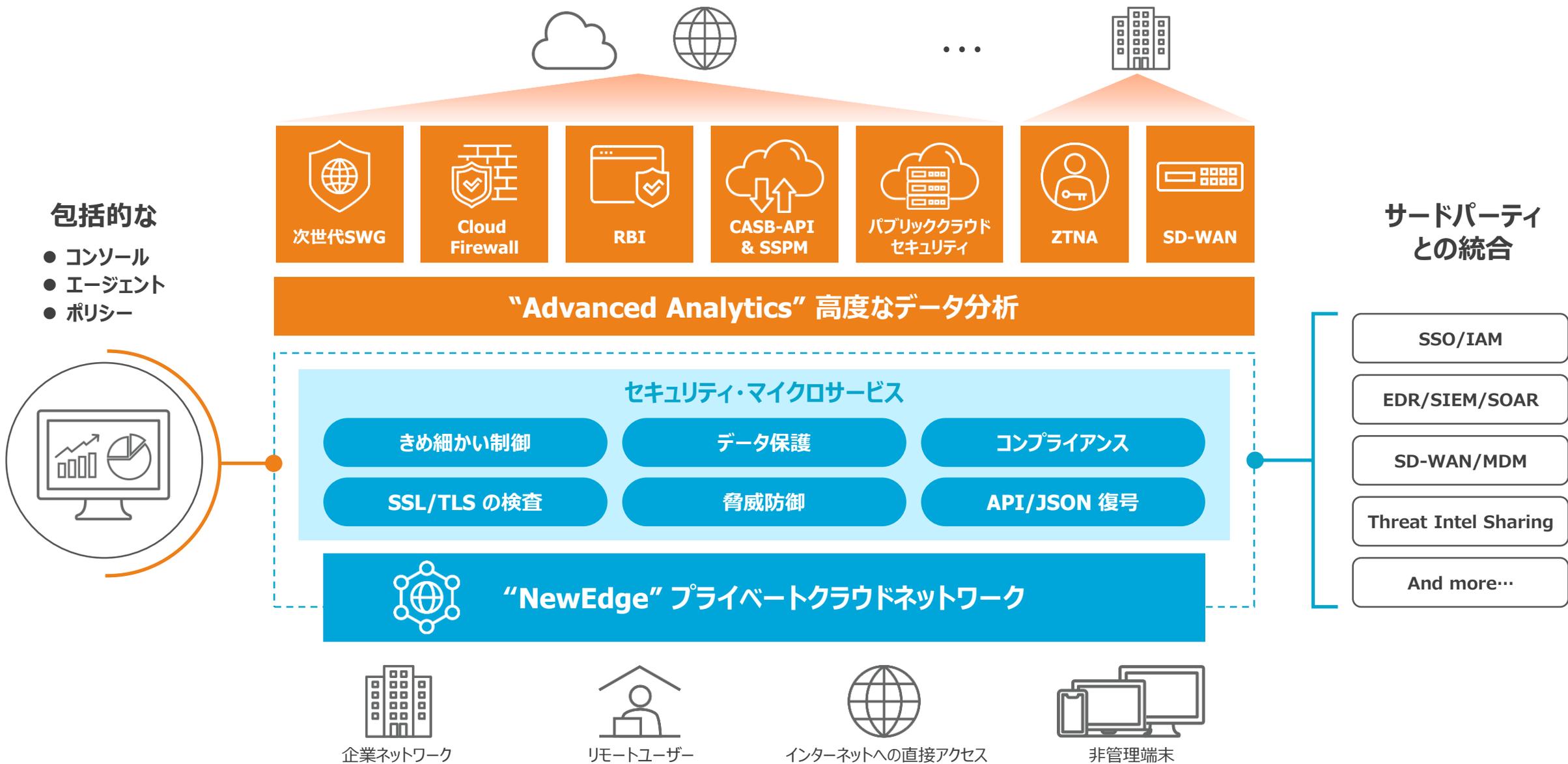


## データ専用DC

- 日本では東京に加え大阪にも
- 約70の地域で自社インフラDCを展開し、パブリッククラウドの予測できないパフォーマンスに依存しない
- 仮想PoPやパブリッククラウドを使用していない
- 全てのPoPを利用可能
- 全てのPoPでMS・Googleとピアリング

パフォーマンスをさらに向上させるためDCを続々と新規追加

出典 : <https://www.netskope.com/press-releases/netskope-newedge-most-well-connected-network-for-cloud-data-security>

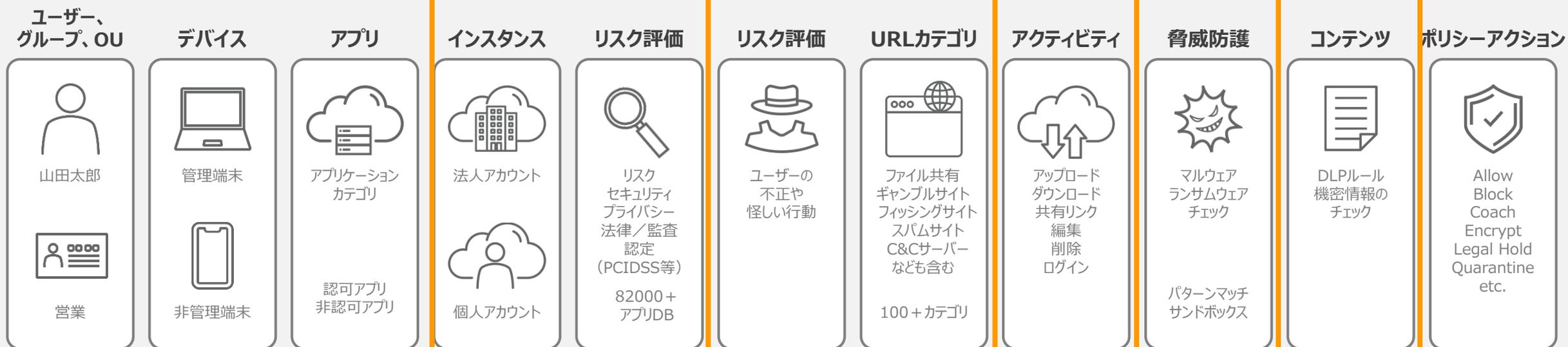


## 包括的な

- コンソール
- エージェント
- ポリシー



## さらに多くのアプリの可視化やきめ細やかな制御が可能に

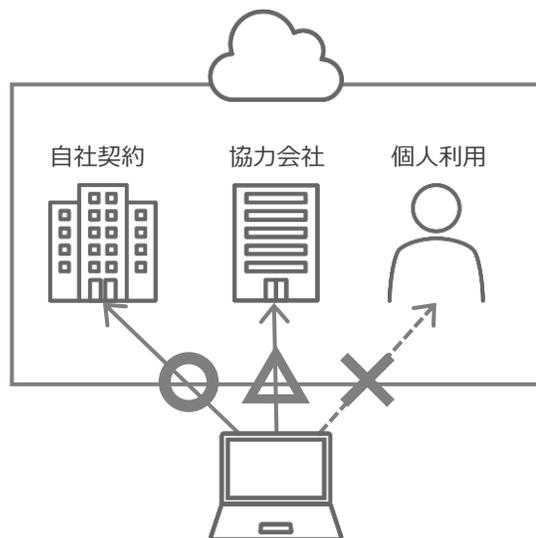


### 利用イメージ

- 法人インスタンス以外のTeamsを使用し、ファイルをアップロード → DLPチェックで個人情報や機密情報があればコーチング
- 法人インスタンスのTeamsを使用し、ファイルのアップロード → マルウェア・脅威をチェック
- 法人インスタンスのTeamsを使用し、モバイル端末でファイルをダウンロード → 読み取り専用モード
- ギャンブルサイトを閲覧 → サイトをブロックし、利用規定アラートを表示しユーザーを指導

こんな時

「同じクラウドサービスでも、  
自社契約・協力会社・個人利用と  
インスタンス・テナントごとに制御したい」



## Netskopeなら

### インスタンス識別やドメイン識別により柔軟な制御が可能

#### インスタンス識別

自社インスタンス

Application: Google Drive  
Instance Name: Enterprise Inc.  
Instance Tag: Company  
Instance ID: enterprise.com

個人インスタンス

Application: Google Drive  
Instance Name: Personal  
Instance Tag: Personal  
Instance ID: gmail.com

- 各アプリ独自の内容を解析し識別
- インスタンスをタグ付け

#### ログインドメイン識別

name@enterprise.com

\*\*\*\*\*

ログイン

- クラウドサービスにログインする時のE-mailのドメイン部を識別

#### SaaS提供のテナント制限

New Key-Value Pair

APPLICATION

Microsoft Office 365 Account ▼

KEY

Permitted Tenant List ▼

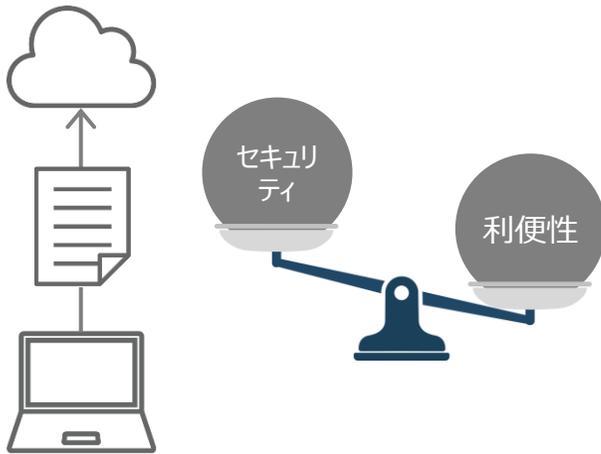
VALUE

enterprise.com ▼

- 独自HTTPヘッダによるテナント制御
- O365などアプリ独自機能

こんな時

「ミスや故意による  
アップロードなどを制御したい」



## Netskopeなら



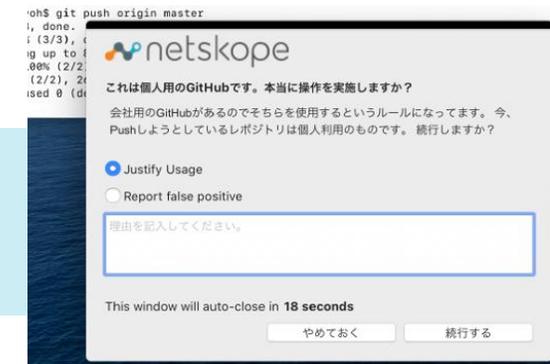
## セキュリティと利便性を両立する柔軟な制御

### ユーザーへアラート 禁止イメージ



個人用BoxやGoogleドライブの利用は停止  
(会社契約のものは操作可能)

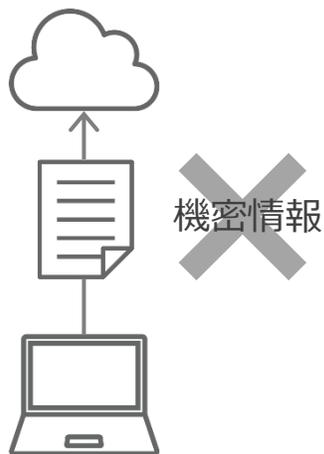
### ユーザーへアラート 警告イメージ



個人用GitHubへのPush時、ユーザーに通知  
(会社契約のものへは通知なくPush可能)

こんな時

「クラウドストレージを使わせたいが、  
重要データや機密情報は  
アップロードさせたくない」



## Netskopeなら

### 重要データかどうかを検知し、制御することが可能

#### 日本のローカリゼーションにも対応

- 日本語文字コード（UTF-8、Shift-JIS）対応
- マイナンバー、パスポート番号、運転免許証番号、住所、クレジットカード番号などの事前定義識別子

#### 検知方法例

- ✓ 3,500以上の事前定義識別子
- ✓ カスタムキーワード（社外秘、Confidentialなど）
- ✓ Fingerprinting（フォーマットを覚え込ませ、それに対して何%近似したら検知）
- ✓ Exact Match（完全に一致したら検知）
- ✓ OCR検知



こんな時

ユーザーが利用する  
全てのクラウドサービスに関して  
セキュリティリスクを判断し、管理するのは  
現実的に不可能



Netskopeなら

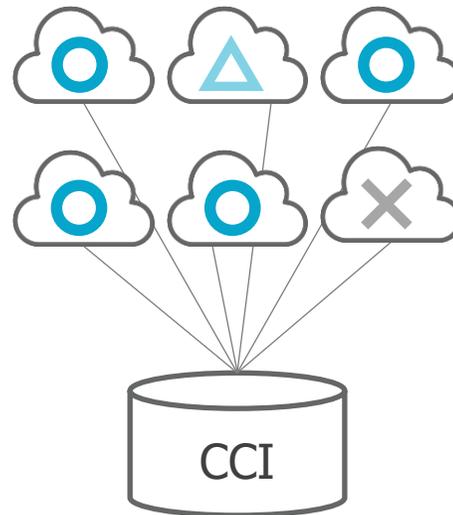
CCI

Cloud  
Confidence  
Index

が利用可能

## クラウドサービスの正確で迅速なリスク把握に寄与

- 82,000以上のクラウドサービス・アプリのデータベース
- CSA（クラウドセキュリティアライアンス）の評価基準に則って評価しデータベース化



### 評価例

- ✓ データセンターの安全性  
(データセンターが取得している認定基準)
- ✓ アクセス制御機能の有無  
(SSO/AD連携やマルチファクタ認証が可能か)
- ✓ プライバシー情報の扱いを評価  
(ユーザーの個人情報を第三者と共有していないか)

